

[P-174] メコバラミンが著効したメトホルミンによる味覚障害

副作用、相互作用、イベントモニタリング

○小林友稀 1, 牛込真実 2, 竹野信吾 1 (1.たけの薬局たかさい店, 2.たけの薬局下妻店)

【目的】

メトホルミンは糖尿病ガイドラインで最も推奨度が高く、使用頻度も高い糖尿病薬の 1 つである。メトホルミンの稀な副作用に味覚障害が起こることは知られているが、その機序や治療法は確立されていない。今回、メトホルミン服用中に発症した味覚障害に対しメコバラミンが著効した例を経験した。メトホルミンによる味覚障害に対しメコバラミンが有効であった例は、私たちが文献検索した範囲では認められず、本症例がその第 1 例である。

【症例の概要】

50 歳。2 型糖尿病に対して X-2 年からメトホルミン開始。X 年、軽度の霧視と何を食べても甘く感じるという味覚障害の訴えを投薬時に聴取した。症状の特徴からビタミン B12 欠乏による味覚障害を疑った。処方医に情報提供を行い、ビタミン B12 検査とメコバラミンの処方提案を行った。提案どおりメコバラミンの処方が追加され、メコバラミン服用 1 か月で霧視、味覚障害ともに改善した。

【結果及び考察】

本症例で、以下 2 点が示された。メトホルミンの副作用であるビタミン B12 欠乏は味覚障害を引き起こしうる。メコバラミンはその味覚障害に有効であり、メトホルミンの休薬を必要とせず味覚障害を改善しうる。

メトホルミンの副作用であるビタミン B12 欠乏は味覚障害を引き起こしうる。メトホルミンによる味覚障害の報告は少なく、発生時の治療法も確立していない。メトホルミンによるビタミン B12 欠乏性末梢神経障害は少数だが報告がある。本症例では霧視を伴ったことからビタミン B12 欠乏による味覚障害を疑うことができた。

メコバラミンはメトホルミンによる味覚障害に有効であった。メトホルミンを長期服用しているとビタミン B12 欠乏が起こりうる。本症例でもメトホルミンの服用歴は 2 年と長期服用であった。薬剤性味覚障害は原因薬剤の中止が一般的な対処法であるが、治療上継続が望ましい薬剤の場合は中止によるリスクが大きい場合もある。今回の症例ではメトホルミンは中止せずにメコバラミンを追加することで味覚障害の改善がみられた。

メトホルミン長期服用中に味覚障害が現れた場合は、ビタミン B12 欠乏による可能性を考慮する必要がある。その場合はメトホルミンを中止せずにメコバラミンを投与することでメトホルミンによる糖尿病治療を継続しながら味覚障害を改善することができる可能性がある。

【キーワード】

メトホルミン、味覚障害、糖尿病、メコバラミン、ビタミン B12 欠乏